

おおぎ会 歩こう東海道 57 次

“お江戸日本橋へ”

第 23 回

平成 24 年 4 月 14 日から 15 日

先日 京の祇園で、自動車が暴走し (?), 多くの死傷者を出した。又 世間では、原発の再稼働についての、論戦が華やかだ！ 我々は知らず知らずの内に“文明の利器”の恩恵を、最大に享受している！ 「馬鹿に鉄を持たせるな！」ではないが、使い方を間違えると、凶器になるという事も知っている。どうすればいい？ それを知るために 自分の足で東に向かって進むのだ！



の 4 つの宿駅を設け東海道 57 次とし、現在に至っている

この企画の、誕生には 僕は立ち会っていないが、以後 継続され、23 回目。プロジェクトが、多年に亘るので、旅人達の体力が限界に近い！ 一刻も早く、“お江戸日本橋”に立ちたいと願う。

東海道は 1601 (慶長 6) 年、徳川幕府により江戸から京都迄に 53 の宿駅を整備させた。京・大阪間には京街道 即ち豊臣秀吉が整備を行った「文禄堤」があり、当時 豊臣家はまだ健在で、遠慮したのか、東海道を大坂までとは言えなかった。1615 (慶長 20) 年、大阪城が落城すると、大坂 (高麗橋?) まで延長し 伏見・淀・枚方・守口

旅人	A	細田 庄一
	B	藤井 博伸
	C	木本 信男
	D	中山 博夫
	E (記録)	足立 義明

(1 日目) 4 月 14 日 (土) 雨

静鉄柚木 → 長沼一里塚 → 草薙 → 追分

→ 慈雲寺 → 稚児橋 → 江尻(清水)宿(18) → JR 清水

距離 9.70km (今日の歩行距離 $20,091 * 70\text{cm} = 14.06\text{km}$)

昨日 某国の人工衛星が黄海の藻屑となった。無駄使い！ 清めの水が雨となり、長尾の駅で待ち合わせ！ 私達と連れだって東に向かうらしい。早朝 7 時 00 分 駅前から、雨の中 高速道を安全に留意し 東に向かう。途中 休憩を取りながらも順調に進む。三ヶ日より先に新東名 (今日開通 全区間ではない。開通区間は三ヶ日から御殿場 JCT までで 162 km 大災害時の代替ルートとして大いに期待) が見えてきた。実際の通り始めは PM3:00 である。横目でルートを眺めながら先に進む。雨の為 “富士の山” は顔を出さず、静岡インターより一般道へ。“静鉄柚木” に、正午に到着するが、周辺には駐車場がない。予定を変更し、ホテルに直行し車を預ける。先ず昼食 駅前の中華食堂で、焼飯を食べた！ 駅前の店らしくない。吉野家の価値観『うまい、や

すい、はやい』を教えてやりたい気持ち。 大失敗！

御発ち 静鉄柚木

静鉄“新清水”から、電車で“柚木”へ、駅前より 早速 旅へ！時に 14 時 20 分 雨は止まず！ここは “府中宿”の街外れ！これから江尻に向かう！

長沼一里塚跡



R1 をしばらく進み、護国神社前を線路沿いの小道に進む。“長沼駅”を過ぎた頃、右側に小さな道標が見えた。これが“長沼一里塚跡”（写真）だ。今はこれしか残っていない。長沼の交差点で R1 に戻り“古庄”の 3 差路を右方向に進む。前方に 東海道新幹線・東海道本線が見えてきた。これらと交差する地下道の入り口が見つからない。静鉄の陸橋の下で、向う側からの入り口だ。地下道は、小型自動車も通行可故に、歩行者には危険だ！ 出口には 東海道線の記念碑があり、割と目につく。前は草薙球場 その脇を通り東に向かう。考えれば先人は 皆江戸側からだ！パンフには簡単に記されているが、大阪側からだ、渡るのに、往生しまっせ！

草薙

球場横の南幹線更に南の小さな道路を東に向かう。“東名高速”をくぐり、さらに東に！やがて R407 との交差点に大きな鳥居があった。これが「草薙神社の大鳥居」である。日本神話で、日本(ヤマト)武尊(タケノミコ)が東征の時、この地の国造が謀って、日本武尊のいる野原に火を放ち、日本武尊は天叢雲(アマムラガモ)の剣で、周囲の草を薙ぎ、向火を放って難を逃れたと記されている。景行天皇が 53 年、武尊の勲功の地を訪ね、武尊を奉る神社を建立した。これが“草薙神社”で、社殿は南東に 1.0 km の所にある。

鳥居を右折し R407 を進むと、静岡銀行の一角に、狸と“草薙一里塚跡”（写真）碑が設けられていた。何で狸なのか判らない！もう少し奥に設置してくれれば、写真が楽に撮れたのに！雨の中道は少し登り坂「上原」の所で左小道に進めば、境内に多くの歌人の碑がある“十七夜山千手寺”に行きつく。道（R407）なりに進み頂上付近で、赤い“聖一国師堂”が見えてきた。祭られている国師は、鎌倉時代のお坊さんで、「聖一和尚」と呼ばれ、日本での勉強後、中国に渡り修行され、帰国後「東福寺」を開かれた偉い人。又帰国に際し お茶やうどん・蕎麦の製法技術を持ち帰り、農民に伝授されたらしい。お堂への入り口が、見当たらず、結果 ここはパス。Super IEON でトイレ休憩をし、疲れをいやす。IEON の前から曲がりくねった狭い道 予定の街道 JR 東海道線と交差 長い信号待ち、雨はまだ止まず。先方の金谷橋を渡ると“追分”だ。住宅の解体工事で、堂々と道路使用、おかげで 片側通行 気を付けて歩く。



追分

先ず“都鳥の供養塔”（写真左）が目につく。都鳥は浜松のヤクザで、都田の吉兵衛と申し、森



の石松暗殺により、次郎長に追われ逃げ回るが、追分の茶屋に潜んでいた所を見つかり殺される。後難を恐れ 死体は、野晒しにされていたが、哀れんだ人々がここに埋葬し、供養塔を立てた。しばらく行くと元禄年間創業の“追分羊かん”（写真右）が



あり、今も昔ながらの手法で、一枚一枚竹の皮で包んでいる。雨の為か、早々にドイツ人の店員が、暖簾をしまいだした。あわてて写真に収め、羊かんを食する。この隣が身延山への“追分”で、道標があり「**是より志みづ道**」と刻んである。ここが“追分”

清水次郎長

もう少しで清水の街！ 天気が良ければ **清水～湊の名～物は お茶のお～香りと 男伊達…**と鼻歌が出るのだが！ 東海一の大親分はと聞かれば、それは**清水の次郎長**（本名山本長五郎）と答える。次郎長は文政3年(1820)、船頭の次男として生まれ、山本次郎八の養子となり、家業の船運に従事するが、博打と喧嘩を繰り返し、人を殺め 清水に居られなくなり、プロの博打ち修行？を積み諸国を旅し、成長した次郎長は**清水湊**に一家を構えた。その後 富士川の船運の権利を巡り、甲州博徒“**黒駒勝蔵**”との抗争は、浪曲の通りである。反面 山岡鉄舟や榎本武揚等とも親交があり、明治になって、博徒を辞めた後、茶の販路の開拓や、清水港整備等…多くの社会事業に心血を注いだ。明治26(1893)年 風邪をこじらせて、家族に看取られながら死んだとの事、享年74 先を急ぐ旅故に「**生家**」と「**梅陰禅寺**」(菩提寺)(写真)の探訪は省略した。



昭和に入り 清水港は天然の良港であり、海運の中心として栄えた。その為、爆撃の標的となり、“**江尻**”の街並みは完全に焼失してしまう。現在は町村合併を繰り返、し静岡市清水区となる。

慈雲寺

今日は一日 雨に崇られる。やがて入江町 此の辺りより江尻…“**西木戸跡**”の標柱 更には“**慈雲寺**”(写真) 臨済宗妙心寺派の寺で、江戸時代 いち早く寺子屋を開設し、それが 入江小学校へと変遷する。又飢饉に対して、薩摩芋を、この地に普及させた「**長泉和尚**」が居られた所です。境内には摩尼車が置かれているが、由来は良く判りません？ 先方の3叉路をR75に合流し**巴川**に、橋の手前に“**船高札**”船が災難に遭った時の助け合いの精神等を示していたらしい。この川に架かる橋を“**稚児橋**”と言う。



稚児橋

“**稚児橋**”は、**江尻橋**の通称で、慶長12年 渡り始めの日、突然川中から童子(河童)が現れて、入江方面に消えた。以後童子橋・河童橋と呼ばれる様になり、欄干には、河童が鎮座している。橋を渡り、左は**江尻城**に行き、東街道は右折れし続いている。前方左に“**案内板**”(写真右下)を見ながら進むと、又鉤の手となっている。



江尻(清水)宿(18)



江尻とは巴川の尻 即ち河口に発達した町で、古くは、今川氏が支配していた頃、三日市場として栄え、交易の要衝でもあった。永禄12年 武田信玄が**江尻城**を築き、城下町となり、又職人の街としても発展する。宿場は西の入江町の木戸



から東は辻村の木戸迄およそ 2.0 kmの中に、本陣 2 (此処の看板には 3 となっている)・脇本陣 3・問屋場 1・旅籠屋 50 と大きな宿場で中心は“銀座”付近である。街道は鉤の手に曲がり、見通しを悪くし、又紺屋町・七軒町では袋小路を設けるなど、警備に万全を期している。

お着き JR 清水

銀座の交差点を右折し、伝馬町に入る。“江尻東”(JR 清水駅前)の交差点まで来た。時は午後 5 時 55 分。雨は未だ降り止まず。本日の歩きはここまで、歩数 20091 歩

予約していた駅前の「清水シテイホテル」に向かう。喫煙室しか空いていないとの事だが、煙草の臭いはせず 一安心。チェックインを済ませ すぐに一杯のビールと 1000 円の夕食で、空腹を満たす。少し疲れたのか皆言葉は少ない！ 早々に 各自部屋に引き上げる。別に することもないので、入浴を済ませ、TV を見るが、つまらない。旅の纏めをしていたら 9 時になった。そのままベッドで横になる。爆睡

(2 日目) 4 月 15 日 (日) 晴

JR 清水→細井の松原→坐漁荘→清見寺→興津宿(17)

→川会所跡→薩埵峠→間の宿→JR 由比

距離 10.0km (今日の歩行距離 $22.645 * 70\text{cm} = 15.85\text{km}$)

昨夜の雨は もう無い 午前 6 時 猫の鳴き声で目が覚めた。まだ発情期に達していないのか優しい鳴き声 窓の外を探すが、見当たらず。朝食は 7,00 時 少し早めの行くと、すぐに準備してくれた。800 円の和定食 しっかり食べて、出来るだけ早く出発したい！ 宿賃 5500 円を支払い、ホテルに車を預けたまゝ旅に出る。時刻は 8.00 時

御発ち JR 清水

昨日とは大違い 完全な旅日和 旅人達は、元気モリモリ 安眠の結果か！ “江尻東”で右折のつもりが行き過ぎて “大手町”に、本来なら本郷と辻村の境の “東木戸跡”に着くはずが 大分回り道 もとのコースに戻るのに一苦労！

細井の松原



やがて辻町で R1 に合流する。ここから “細井の松原” である。元禄年間 全長 360m に亘り両側に、206 本の松が植えられていたが 戦争末期に、油を搾る為に、すべて切られてしまったらしい。現在は 1 本(写真左)だけ見付けられたが 後世の物？ 見渡せど 海は遠く 松もなし。あるのは 排気ガスのみ！ 「袖師」で自称 85 歳の老婆

に話を聞く、昔 この辺は海岸に近く、天女で有名な “三保の松原” (写真は薩埵峠より) 迄は、直線で一里位！ 陸を歩けば すごく遠いがね。今は埋め立てと JR の線路の為、海も見えず昔の面影は無いさみしい！ この辺の電柱には、海拔 3.00m 等の表示が多くみられる。これは津波に対する予防と避難の基準であるらしい。だが 当地は、庵原川が抱擁する様に蛇行し、避難路は無い。R1 も歩けるかどうか？ でも 河口付近の巨木は何百年も生き抜いてきたはず！ 何とかなるさ！ …とお母さんは言っていた。やがて道は登りに差し掛かる。延命地藏尊前を右に進み旧街道を歩く。道



は大きく蛇行しバイパスをくぐる。左 山道を登れば、「井上馨」の別邸“井上旧邸跡”、今は文化センターに変わっているらしい。街道に戻り、しばらく行くと興津の街に入っていく。先ず公民館の隣に立派な日本家屋が見えた。これが“坐漁荘”である。

ザ ギョウソウ 坐漁荘



おおぎ会東海道
24.04.15興津宿
座漁荘

明治の公爵 西園寺公望が、清見潟に面する広大な敷地に、大正8年に建てた別荘（のんびり魚釣りでもして過ごすつもり）で、建物面積は460.27㎡の木造2階建の純和風建築である。公の趣味で至る所に竹を使用しており、いい雰囲気をかもし出している。又浴室の押しボタンは、ナースコールとの事 至れり尽くせりだ！ 公はここで20年余を過ごされ、92歳の生涯を閉じたのは、昭和15年11月 太平洋戦争の開幕の一年前である。公が頭在中は、多くの政府要人が「西園寺詣で」を行っていたらしい。市の観光ボランティアが、色々と丁寧に説明してくれる。全て聞いていたら半日かかるだろう、先を急ぐ旅故に、早々に引き上げる。



おおぎ会東海道
24.04.15興津宿
座漁荘

新幹線・高速道路の建設工事により、眼前の海が消え、又 当時の建物は老朽化した為、明治村に移築され、現存の建物は、市により忠実に復元されて、平成16年4月より一般に公開（見学は無料）されています。

清見寺

左手 JR の上に寺院が見える。玄関は向う側で遠い。丁度 線路のガードフェンスに、人が通行できる隙間が設けられている。用心して線路（横断歩道と違い本当の線路の上）を渡ると、その上



おおぎ会東海道
24.04.15清見寺

が“清見寺”です。境内では、眼下に駿河湾・三保の松原と景勝地が一望できます。「秋晴れや三保の松原一文字に」（大野万木句碑）！現在は、道路とビルの陰になり、当時の様子は解りませんが、何と無く見晴しは良さそう。寺の歴史は 白



おおぎ会東海道
24.04.15興津宿
清見寺

鳳時代（約1300年前）に、蝦夷の備えとして、この地に関所が設けられ、専ら関所の鎮護を目的に仏堂が建立されたのが、始まりとされています。鎌倉時代に 禅寺として復興し、後 足利尊氏の庇護を受けて「天下十刹」（テンカジツツ）にまでなり、全国有数の官寺と認められています。徳川家康が、「住職雲斎禅師」の教えを受けたとされ、家康ゆかりの場所が、多く残され、山門・仏殿・大方丈・鐘楼などが当時の姿で、威容を誇っています。芭蕉句碑「東（ヒガシ）（ニ）西（ニ）あはれさひとつ秋の風」や与謝野晶子歌碑「竜臥して法（川）の教えを聞くほどに梅花の開く身となりけり」と多くの文化人が、逗留して歌を残しています。又明治元年 清水港で官軍と戦った咸臨丸の戦死者の慰霊も祀られ 多くの方が訪れている様だ！

興津宿(17)

古くは息津（イヅツ）駅が設けられたから？ 又平安末期から興津氏が居住していたので、その名が附いたと言われ、位置はもう少し西寄り「横砂」辺りでは（？）と、諸説あり。昔から、風光明媚で知られ、明治以降は、鉄道の開通により西園寺公などの別荘が建ち並び、避寒地として知られていた。宿場は本陣2・脇本陣2・旅籠屋34・問屋場1と大き





くはないが、難所薩埵峠があり、峠越えを控え・又は越えてきたばかりの旅人が逗留し賑わっていた。明治に入り 参勤交代の恩恵もなくなり、各地の宿場は次第に寂れました。東海道線が静岡まで開通し“興津駅”が完成した年には、皇太子（後の大正天皇）が清見寺に宿泊し、海水浴を楽しまれたらしい！

やがて街道を進むと“西本陣跡碑”

右手先方に落ち着いたか感じの建物(ギャラリー水口屋)が見えてきた。“脇本陣水口屋跡”(写真右)で明治以後も著名人の別荘・旅館として使用され、昭和60年に閉業する。スタッラーの名著『日本の宿』に夢のような静かな宿と言わせている。“一里塚跡”・“身延道道標”を過ぎると宿場のはずれとなる！



川会所跡

興津宿の町外れ、ルート通りに進むと興津川に突き当たる。見渡すが 橋は見えない。昔から興津川は、徒歩渡しだった。川会所で起札を買って、蓮台又は人足の肩車にて渡った。渡し賃は、水深により決められており、4尺5寸以上になると、川留めになったらしい。やむを得ず 回り道してR1に出る。これが正解 河口付近の“興津川橋”を渡り、JRの線路をくぐったところに“川会所跡”(写真)の看板があり、前述の説明が記されている。



サツタトウゲ 薩埵峠



やがてみかん？畑の中、山沿いに進む。途中 庭のきれいな“端泉寺”(写真)“秋葉山常夜灯”を過ぎ“白髭神社”の脇を通り休憩所にたどり着く。 車両は ここまで！ これからは歩きとなり、急な登り道が待っている。登り口にはプラスチックのスティックが常備されていたが、あまり使っている人はいなかった。



狭い道(写真右)を登ると、やがて 視野が開けた。有名な“薩埵峠”である。左に山・右に海・真ん中に道路…その向こうには雪の帽子の富士の山…すごい絵になる。写真に夢中になるが、うまく 富士のお山が出ない。なぜ？春霞か？黄砂か？それともお山が恥ずかしいのか？写真の腕には自信があるのだが！ 古くから



“薩埵峠”は、道らしい道がなく、海岸の波の間を通る(親知らず子知らずと呼ばれる)危険な難所でした。江戸時代に 朝鮮通信使を迎える為に、峠道が整備されました。後 安政の大地震で、陸地が隆起し、海岸に道が出来たので、峠道は次第に荒廃してしまいました。現在はハイキングコースとして整備され、結構賑わっていた。(今日は日曜日?) 此の辺りが頂上か？道標がある“山之神展望台”(写真左)には景色の他



は何もない。勿論食堂らしき物も無い。時間も正午を過ぎました、昼食は当分お預け！ オレンジ畑と枇杷畑の間の長い下り坂を、

お山に向かって、黙々と下っていく。先方の富士の山…どこまで行っても絵になる！

間の宿



麓に近づくと、急な下り道となる。相当 膝に負担を強いている。3 差路に説明板と標柱が、石垣を背に建っている。これが倉沢の“一里塚跡”(写真左)だ。昔は塚の頂上に、榎が植わっていたが、今は 案内板と石碑のみ。最後尾の旅人は、その辺にいない！しばらく待つことにする。全員揃い、「JR 由比」に向かい出発する。この辺りは、“間の宿”と呼ばれ古い家屋が目につく。難所の峠の直下で、休憩場として賑わっていたようだ。すぐに“望嶽亭藤屋”(富士の山の眺めが最高との事)があり 続いて、明治天皇が休憩したと言われる本陣“柏屋”が残っている。通りには、家並が続き、結構 賑わっている。“あかりの博物館”を左手に、その先に、寺尾村名主の屋敷跡“小池屋”(写真右)(現在は旅人の休憩所として提供されているらしい)を眺めながら先の進む！ 宿場は、右に海・左は急峻な山…その間のわずかな平地に開かれた街で、JR・R1・東名高速道路とひしめき合っており、今は海岸も望めない。



お着き **JR 由比**

やがて道は R396 を横切ることになる。信号のある交差点は、見当たらない。止むを得ず、陸橋を渡る。すぐに“JR 由比”だ。“由比宿”はもう少し先との事、本当はもっと進みたかった！ 身体が資本の旅(文明の利器には頼らず) 無理をせず！ 次回を楽しみにして、今日の旅は、the END。時刻表を確認中に、電車は出発。駅前には売店もない、峠で買った凸ポンが一袋。腹の足しに！ やがて電車で、JR 清水へ(たった二駅だけど運賃 250 円高い！)そして駐車場へ 午後 2:00 時丁度に到着する。約束の時間だ。今日の歩きはここまで！ 歩数 22645 歩。

車に乗り 清水を出たのが、14 時過ぎ、お腹は完全に空である。昨日の「やすい軒」にするかと尋ねたら、全員の同意を得られず！ しばらく辛抱！ 日本平 SA で掻揚定食(掻揚うどん+しらす丼=900 円)を頼む。旬の桜エビが美味しかった。満腹・幸せ！ 昨日開通した新東名に乗ろうと思ったが、純正のカーナビでは、工事中！ 旧道を走らせられた。でも 混雑は少ない。出来るだけ早く帰宅したい。途中 最小限の休憩 先を急ぐ。歩き疲れか、運転の藤井君以外は居眠り、おかげで車内は静かだ！ そのまま高速を突っ走り、土山 SA で、路銀の清算をする。トイレを済ませ、枚方へ！ 思いの他 渋滞に巻き込まれず、八幡まで帰ってきた。毎度の事ながら、藤井さんの運転 フォレオ枚方の前で、降ろしてもらおう。皆に別れを告げ、我が家に到着 丁度 平清盛が始まっていた。

(おわり)

